

静岡の病院

つなごう医療

〈34〉

百人程度が外科手術を受ける中、今ではセンターでその一割以上に当たる年間六十〜七十人の幼児から高齢者が手術を受けている。

を包括して担う。これまでに約三万五千人の患者が受診している。

てんかん患者を対象にした外科治療は一九八三年に開始。全国で年間五千差万別。診断を確定さ

波ビデオ検査」用の薄型モニターが二十台近く並ぶ。「てんかんの症状は

確認して症状を患者本人に示したり、治療薬の選定に活用したりでき

波ビデオ検査」用の薄型モニターが二十台近く並ぶ。「てんかんの症状は

確認して症状を患者本人に示したり、治療薬の選定に活用したりでき

を高めるため、さらに臨床研究を、必要があれば基礎研究を進めていく。教育や研修はセンターに課された大きな役割なので、海外の医療機関との連携も含めた医師教育に力を入れていき

脳波ビデオ検査活用

てんかんは患者自身が運動中の発作によるとみられる悲惨な交通事故も起こり、てんかんには負のイメージが先行しがち。一般の人にもてんかんを理解してもらおうと毎年、専門医や看護師ら

国内を代表するてんかん治療の基幹病院として、乳児から高齢者まで全国各地の難治患者を受け入れている。精密な診断や高度治療、リハビリケアから、治療法や治療薬などの研究、教育まで

てんかん

脳細胞の



ネットワークに起きる異常な神経活動のため発作を起す疾患または症状。大きくは脳に何らかの障害や傷があることによつて起る「症候性てんかん」と原因不明の「特発性てんかん」に分けられる。日本てんかん協会などによると、乳幼児から高齢期まで幅広く発病するが、3歳以下の発病が最も多く、80%は18歳以前に発病するといわれる。近年は高齢化に伴い、高齢者の脳血管障害などによる発病が増えている。けいれんや意識喪失など人により発作の症状はさまざまある。

静岡てんかん・神経医療センター



「脳波ビデオ検査」のモニターを指し示す寺田清人医師—静岡市葵区で

国立病院機構「静岡てんかん・神経医療センター」

1926年3月、静岡市立静岡療養所として創設。74年4月に国立療養所静岡東病院と改称。75年難病(てんかん)診療基幹施設に指定。2001年に国立静岡病院と組織統合、国立療養所静岡神経医療センターとして開院。04年に独立行政法人化に伴い現在の名称に▽小児科、精神科、脳外科、リハビリテーション科など11科▽410床▽医師30人、看護師192人▽静岡市葵区漆山▽電054(245)5446



寺田医師は「脳波に異常があればコンピュータが感知し、脳のどの部位に問題があるかモニターに表示されます。異常値を示した時の患者さんの様子も分かります」と説明する。てんかんは患者自身が運動中の発作によるとみられる悲惨な交通事故も起こり、てんかんには負のイメージが先行しがち。一般の人にもてんかんを理解してもらおうと毎年、専門医や看護師ら

過去の記事は「中日医療サイト」で読めます。(唐沢裕亮)